



登米市立石越小学校

# 防災だより

令和2年9月24日

No. 2

防災担当  
文責（鈴木明美）

## 防災講話 9/23

昨日は、小野寺 徳茂氏（元気仙沼市立鹿折小学校長）をお招きし、「命—あの日のこと」と題して、実際に経験した東日本大震災の出来事とその教訓についてお話をいただきました。当時の津波被害の写真を映し出し、被災し流されてしまったご自宅や当時勤務していた鹿折小学校の様子等を交えながら、危険から命を守るために大切なことを教えていただきました。

あれから9年になろうとする今、どこにいても命を守るための心構えをしっかりと心に刻んでおきたいものです。大震災の記憶を決して風化させないためにも。



3校時目  
1年～3年

4校時目  
4年～6年

下学年も上学年もみな真剣にお話に耳を傾けていました。



**命を守るために**

1 避難の仕方・避難時の取り決め・約束

どこへ・だれと・どのコースで・車か歩きか・持ち出すものは、自分で避難できない隣の人とは？

↓

(家族で話し合い、友達・地区・地域へ広げ共通理解)

「津波てんでんこ」

岩手県三陸海岸地域の津波防災伝承の一つ。

「てんでんこ」=「てんでん」+「こ」

「てんでん」:「各自で」「ひとりひとりで」「めいめいで」

「こ」は、〈小さい、幼い〉を意味  
(あめ⇒あめっこ 水⇒水っこ)  
(どじょっこふなっこ)

「自分の命は自分で守る」の教え

○ 避難の仕方や避難時の取り決めは、家族で話し合い共通理解をしておくことの大切さをお話ししていただきました。

○ 「てんでんこ」→各自一人一人。自分の命は自分で守ることの教えです。(釜石の奇跡でも有名な防災伝承ですね。)

\* ご家庭におかれましても避難所等の確認は、お子さんと一緒にしておくことと安心です。

千年に一度の災害と言われた東日本大震災ですが、いつまた同じような災害に見舞われるか予測はつきません。最近地震も多く感じられます。秋は台風の襲来も予想されます。地震、風水害などに対する危機意識を薄れさせずに、何よりも命優先の対応や心構えを、小さいうちから体に染みこませておくことが大切です。

**もっともっと生きて**

家族や友達とたくさんのことをしたかったであろうに  
もっともっと友達と遊びたかったであろうに  
もっともっとおいしいものを食べたかったろうに  
もっともっといろいろな所へ行ってみたいかったろうに

↓

どんなに辛いこと・苦しいことがあっても  
生きているからこそ、喜び・楽しみ  
生きている証し

大地震・大津波・大雨・洪水・噴火などの自然災害、予期せぬ災害から命を守る備えをしっかりとしておいて！

難きが故に尊し

被災地のことを決して  
忘れないでください！！